

元英国兵が捕虜振り返り

恵子ホームズ
さんから訪問し 入鹿中の生徒と交流深め

第二次世界大戦中に
日本軍の捕虜となった
英国兵ウィリアム・
ンディさん(九三)
六人が九日、熊野市
和町の入鹿中学校を
訪問し、全校生徒十八
人に当時の様子を語っ
た。



「置物」を贈呈



訪問したウィリアムさん(左)と恵子さんから

紀和町には、旧入鹿
村の紀州鉾山に送られ
病死した十六人の英国
兵が眠る英国人墓地が
あり、同町出身でロン
ドン在住の恵子・ホー
ムズさんの呼び掛けに
より、苦難を経験した
元英国兵「イルカボー
イズ」を迎え、平成四

年十月から追悼式が営
まれてきた。追悼式を
続けることで日本への
わたかまりを解き、新
しい絆が結ばれ、今年
は十一日に行うとい
う。

恵子さん、ウィリア
ムさん、義父が入鹿で
捕虜だったジョン・ス

ミスさんらが訪問。恵
子さんは「老人会の人
たちが英国人墓地を大
事にしてくれていたこ
とを知り、すごく感動
した。今では紀南国際
交流会も助けてくれて
います」と話し、ウィ
リアムさんらを紹介し
た。

取っても私たちの人生
にはたくさんのトンネ
ルがある。二十一歳の
時、私は三年半にわた
りトンネルが続いた
と語り、捕虜生活を振
り返った。

一九四一年、空軍に
入り、出港当日、日本
軍による「真珠湾攻
撃」があった。当時の
イギリス首相が日本と
の開戦を宣言し、イン
ドに行く予定が、途
中、日本軍の捕虜に

なったという。
「最初の仕事は爆撃
穴を埋めることだっ
た。その後、捕虜は日
本の船に乗せられ、狭
い場所を五日間過ぎし
た。島に到着後は歩い
て移動し、地面で寝
た。飲み水がないなか
で、毎日働かされた。
その時は、十歳ほどの
体重しかなかった。原
爆投下後に解放され、
二百七十五人が生き
残った。三年半の長い
トンネル生活をした
と語った。



戦争体験を熱心に聞く入鹿中の生徒

ジョンさんは義父に
ついて、「入鹿の鉾山
で働き、戦争が終わっ
て帰還できた。捕虜の
人たちは忘れられた存
在だと思っ生きてき
た。捕虜のことは何も
話さなかったが、来日
して自分の恨み、辛み
と開放された。日本に
帰ってきて過去を振り
返らずに前向きに生き
られるようになった」と
伝えた。

また、以前、生徒に
イルカボーイズについ
て説明した同町の小瀬
功さんから四人も話を聞
いた。